

第24回国際労働問題シンポジウム

持続可能な社会保障をめざして

ILOの戦略と日本の課題

特集にあたって

2011年10月6日（木）、第24回国際労働問題シンポジウムが、法政大学市ヶ谷キャンパスのボアソナード・タワーで開催された。1987年に始まったこのシンポジウムは、2003年以降ILO駐日事務所と法政大学大原社会問題研究所の共催、（財）日本ILO協会の後援で開催されている。今回のシンポジウムでは、（財）日本ILO協会の解散に伴い、日本ILO協議会の後援を得た。

シンポジウムは原則として、その年のILO総会で取り上げられた議題の一つを選んでテーマとし、討議に参加した政府および労使の代表から報告を受け、これに関する学識経験者による報告やパネリスト間の意見交換、フロアーからの質疑応答を行うかたちで実施されてきた。第24回国際労働問題シンポジウムは、2011年6月の第100回ILO総会で取り上げられた議題のうち、第6議題「社会正義と公正なグローバル化のための社会保障」をテーマとして開催された。ILO本部からは、世界の社会保障制度に詳しい山端浩専門家が来日し、講演していただいた。

現在、日本の社会保障制度のあり方が問われている。ILOでの議論を踏まえ、日本の課題について考えるという本シンポジウムの企画は、多くの関心を集め、フロアーからの質問も含め、充実した討論を行うことができた。共催および後援のILO駐日事務所、日本ILO協議会のご尽力の賜物であろう。両団体に改めて謝意を表したい。最後になるが、パネリストをはじめご参加いただいた方々などすべての関係者に、心からお礼を申し上げたい。本シンポジウムでの政労使代表および学識経験者の率直な討論・意見交換が、日本の社会保障の充実に向けた今後の議論に資するものとなるよう期待してやまない。

（榎 一江）

第24回国際労働問題シンポジウム

持続可能な社会保障をめざして ILOの戦略と日本の課題

共催 法政大学大原社会問題研究所
ILO駐日事務所
後援 日本ILO協議会

日時 2011年10月6日（木）13時～17時
会場 法政大学市ヶ谷キャンパス
ボアソナード・タワー（スカイホール）

司会

法政大学大原社会問題研究所准教授 榎 一江

2011年のILO総会について

ILO駐日代表 長谷川 真一

2011年6月の第100回ILO総会での社会的保護・社会保障をめぐる議論

ILO本部社会保障部専門家 山端 浩

政府の立場から

厚生労働省大臣官房国際課課長補佐 清野 晃平

労働者の立場から

日本労働組合総連合会総合政策局長 中島 圭子

使用者の立場から

日本経済団体連合会国際協力本部主幹 森田 清隆

グローバリズムと地域主義の狭間で——日本の役割

東京大学大学院人文社会系研究科教授 武川 正吾

（注）肩書きは2011年7月現在